

産経新聞	平成30年1月18日(木)	朝・夕	23面
------	---------------	-----	-----

# 日本無線など4社表彰

県は17日、先端産業創造プロジェクトの一環として昨年実施した「医療機器等試作品コンテスト」の表彰式を県庁で行った。在宅医療に適した「タンパク質分析機」を開発し、グランプリに輝いた日本無線（東京都中野区、事業所はふじみ野市）など4社が表彰式に参加した。写真（黄金崎元撮影）。

コンテストは今回で3回目。医療機器の開発は認可を得るまで時間と費用がかかり販路の確保も難しいことから、中小企業による商品化はハードルが高い。このため県は、試作品にスポットをあて

## 県「医療機器等試作品コンテスト」



たコンテストを開催し商品化を後押ししている。支援資金としてグランプリは500万円、準グランプリが300万円、技術賞とアイデア賞に200万円を授与している。

今回のグランプリは血液1滴で炎症反応を起こした際に発生するタンパク質を分析し、在宅での感染症を早期に発見できる装置を開発した日本無線が受賞した。同社の谷津田博美開発部長は「10年かけて開発したかいがあり受賞できて光栄です」と話した。

準グランプリは背骨のゆがみの検診装置を開発したノア（茨城県つくば市）と共同提案者のコスミックエムイー（川口市）、技術賞は脊髄損傷者の二足歩行補助装置のUCHIDA（三芳町）が受賞した。

視察した上田知事は「いずれの試作品も汎用性があり方法によっては相当なヒット商品になる」と期待感を示した。